

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 11

東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日
例会日 毎週月曜日 12:30~
例会場所 シェラトン都ホテル大阪
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06(6772)2320
FAX. 06(6772)2327
E-mail:hrcrc@at.wakwak.com



会長 浅野 光 男
会長ノミニー 岩崎 史 郎
副会長 鈴木 勝 俊
幹事 小川 高 弘
会報委員長 大石 忠 克

Reach within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011~2012年度 国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー

第1825例会 平成23年10月3日(月曜日) 第11号

本日の例会

10月3日(月) 第1例会

◎ソング 「君が代」「それでこそロータリー」

◎卓話 「労働条件」

ゲストスピーカー 米山奨学生 陸光杰君
(担当:松岡 武会員)

◎本日の献立 軽食

次回の例会

10月17日(月) 第2例会

◎卓話 「大阪都構想について」

ゲストスピーカー 大阪府議会議員
大阪維新の会 青野よしあき様
(担当:岡田忠彦会員)

◎本日の献立 寿司盛り合わせ

◎10月24日(月)は移動例会(鹿港RC周年記念行事参加)の為振替休会

前回の例会記録

9月29日(木) 第3例会

[秋の家族会]

京都保津川下りと鴨川川床料理
(移動例会)

会長挨拶

会長 浅野光男

本日は上々の秋の日和の中で秋の家族会が楽しめそう

で喜んでおります。今年の東北大震災以降、春の家族会等何かとロータリー活動をやむ無く中止せざるを得ない事態と成っておりましたが、本日この様に開催出来るに至った事は本当にうれしく思っております。

ゆったりとしかも大阪から近辺の嵐山保津川下り、そして京都祇園川床料亭での食事会と今日1日を皆さんと楽しく過ごして参りたいと思います。

今後益々我クラブの親睦活動を今以上に充実したものととしてクラブの活性に努めたいと存じます。

幹事報告

幹事 小川高弘

1. 次週10月3日(月)例会終了後、第4回定例理事・役員会を5階カトレアの間で開催いたします。理事・役員各位にはよろしく願いいたします。
2. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示しています。

出席報告

本日の会員数	36名
本日の出席者数	12名
本日の出席規定適用免除会員	13名
本日の出席率	48.00%
9月5日の修正出席率	90.32%

【秋の家族会】

京都保津川下りと鴨川川床料理



保津川 京都府の中央部丹波高地に源を発し、山間をめぐりめぐって園部から亀岡市に至り、再び山間の峡谷16kmを流れて天下の名勝嵐山につき、鴨川と合流して淀川に入る。この川の亀岡から嵯峨嵐山（京都市右京区）までを、峡谷の美と舟下りで有名な保津川という。

峡谷の景観 川の兩岸は累々たる山、そしてその高峰に京の愛宕山（火の神を祀る）がそびえ、川が右に左にと谷間を縫って曲るたびに、舟の前に後に見え隠れする。岩山・松山・雑木山、桜に紅葉と、自然は四季を通じてさまざまな顔を見せる。流れは激流あり深淵ありで、きわめて変化に富んでいる。河原には流れをさえぎるかと思われる大岩・奇岩巨石が点在、その一つ一つにえもいえぬ趣があり、物語をもって伝えられている。また岩には船頭のさす竿の跡やもどり舟を人力で引きあげた綱の跡が、ところどころについており舟下りの歴史を物語っている。 春……桜・川風に散る花吹雪 夏……岩にさくつつじ・清流に鳴くかじかの涼しい声 秋……紅葉する山々・峡谷を過ぎる時雨 冬……お座敷暖房船から見る雪の峡谷

保津川下り 「川下り」というのは、保津川の水流を利用



して下流にある京都・大阪に物資を輸送することにはじまった言葉で

ある。いわゆる水運であって、この歴史は古く京都に都が造営される以前、長岡京市に都があった頃に行なわれ、その後京都嵯峨の天竜寺をはじめ臨川寺、大阪城築城、伏見城造営と、保津川の水運を利用して、筏によって遠く上流の丹波から木材が輸送され、その資材は整えられたのである。木材だけでなく、慶長11年、川大名といわれた京都の豪商角倉了以によって水路が開かれてからは、米・麦・薪炭なども高瀬舟で輸送されるようになった。丹波の豊富で質のよい木材・穀類・薪炭は、戦後の昭和23年頃まで水運によって京都に運ばれていたが、山陰線の開通（明治32年）により、また戦後のトラック輸送の発達によって、筏と荷船による水運利用は次第に姿を消していった。ところが保津川峡谷の自然美は四季を通じてすばらしく、巨岩をはじめ、圍繞する山々と、しぶきをあげて落流する水、神秘をたたえた鏡のような淵など、変化に富んだ景観は、まさに人の目をとらえて離さない。従って明治の28年頃から、遊船として観光客を乗せた川下りがはじまった。筏や荷船が姿を消した今では、専らこの観光の舟下りとなったのである。亀岡から嵯峨まで16kmに及ぶ保津川下りは、今日世界的に有名な舟下りとして知られ、年間を通じて約30万の観光客が訪れ、四季それぞれの自然美とスリルを満喫している。



「鴨川川床料理」

